４（２）部活動の研究

担当　板床　龍哉

平成２９年度県中体連ブロック開催について

１　はじめに

平成２８年度は、熊本地震により多くの方が被災され尊い命が犠牲になったり、建物へ甚大な被害がでた。それは、部活動にも大きく影響を及ぼした。夏季中体連大会に向け練習が本格化してきた矢先の震災に、各地に散らばって避難した部員との連絡や、毎日の練習場所の確保等、苦労された顧問の先生も多かったでしょう。県中体連会場にも被害があり、会場を変更して開催された競技もあった。その準備をされてきた関係者の先生方にとっては、急な計画の見直しを迫られる大変な年度のスタートになった。県中学校総合体育大会は来年度より郡市開催からブロック開催になる。本年度は、そのブロック開催について報告したい。

２　県中体連ブロック開催について

(1) これまでの県中体連の経緯

昭和２３年　１２月１日熊本県中学校体育連盟発足
昭和２５年　第１回ジュニアレクリェーション大会開催
昭和２７年　九州中体連発足・加盟
昭和２８年　全国中体連発足・加盟
昭和３３年　ジュニアレクリェーション大会を熊本県中体連大会に改称
昭和４３年　郡市大会予選の後６ブロック大会を経て県央大会
昭和４７年　ブロック制中止、郡市代表制
昭和４９年　第１回熊本県中学校総合体育大会の開催
平成２９年　５ブロック制による県大会の開催予定

昭和４３年頃は郡市大会予選の後、６つのブロック大会を経て県央大会に出場という記録が残っている。その後昭和４７年からブロック制を中止し各郡市代表制となり、大会開催地は、順次持ち回り制になり本年度まで続いてきた。平成１７年の第１回組織運営検討委員会で、郡市持ち回りでの大会開催は厳しくなってきたという意見が出され、平成１８年からブロック開催が検討されるようになった。この１０年間でも、ブロック開催案が白紙に戻ったり、競技別の固定開催案が出てきたりして、数年かけて検討された結果、来年度からのブロック開催になった。

(2) ５ブロック制による学校数・体育教師数について　　Ｈ２８現在

番号	郡市名	学校数	体育教師数
1	玉名荒尾（１６）・山鹿（６）	２２	３６
2	菊池（１２）・阿蘇（１０）・上益城（８）	３０	６１
3	熊本市（５３）	５３	１１８
4	宇城（１１）・天草（２１）	３２	４７
5	八代（１８）・球磨人吉（１２）・芦北水俣（８）	３８	５７

(3) ブロック開催の考察

≪ブロック開催のメリット≫
・複数郡市による開催で、予算面の負担軽減が見込まれる。
・人的負担が軽減させる。
・施設確保がしやすくなる。など

≪ブロック開催により心配させるデメリット≫
・開催するローテーションが早くなる。
・開催地出場枠の問題が出てくるのではないか。
・総合開会式の参加種目が減らないか。など

上記のようにブロック開催をすることで幾つかのメリット、デメリットが考えられる。特にデメリットについてはその解消方法も検討されている。総合開会式については会場が広範囲になるため、参加することのできる種目が限られてくることが予想できる。出場枠については担当ブロックになった郡市での話し合いによって決定する方向である。

３　おわりに

来年度より実施されるブロック開催のために、球磨人吉、芦北水俣の先生方は既に会議を重ねられている。デメリットを解消するためにいろいろな工夫をされ、大会を成功させるためにいろいろな準備をされている。第１回目のブロック開催をすることで、新たなデメリットが見つかるかもしれないし、メリットも見つかるはずである。来年度の大会での成果と課題をしっかりと検証し、大会を重ねる毎に参加する生徒にとって、それまで以上に競技に集中できる環境ができるよう努力していかなければならない。